

# 暗闇ぐらし

文明は〈暗闇〉を克服した。そして眩い世界を獲得した。  
あらゆるものが可視化され、昼夜を問わず情報として私たちの中へ流れ込んでくる。  
そんな情報の海の中を今私たちは生きている。

情報の海から心と身体を守るため、人は再び〈暗闇〉に歩み寄りなくてはならない。  
全てを遮断する〈暗闇〉は失われつつある精神、自己、時間、光を再認識させる。  
居住空間が〈暗闇〉と共存することで生活者の心と身体を守り、高める場となるのではないだろうか。  
〈暗闇〉と共に暮らす単身者のための住居の提案。



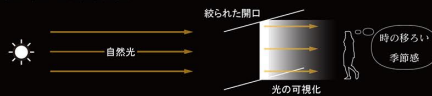
## 思考を促す間

間の中では空間や身体の一部を認知できなくなり、不定形の輪郭へと拡張されてゆく。あらゆる情報から切り離され思考が促されることで、自身の心と向き合う状態が生まれる。情報の海の中の精神を再認識し、自己を取り戻すことにつながる。



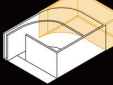
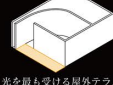
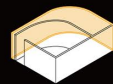
## 可視化される光線

間に差し込む光は光線として可視化される。明るさにより失われた、太陽が知らせる時間の移ろいや季節感。絞られた開口がそれら可視化することで、我々の身体が生き物として太陽と暮らすサイクルを取り戻す。



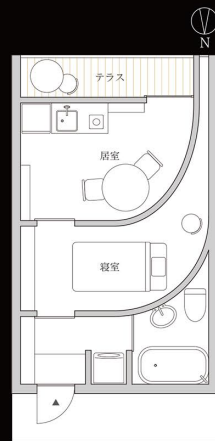
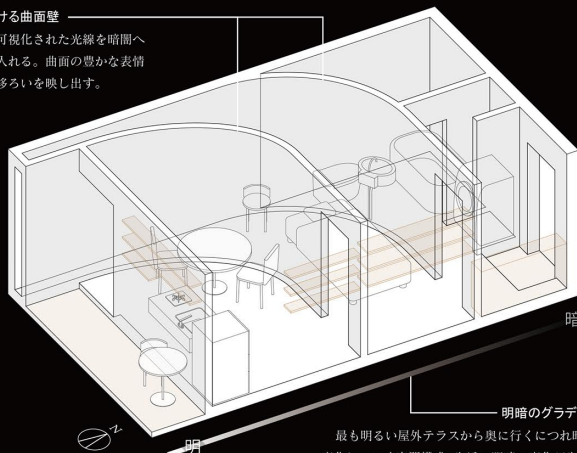
## 自分だけの間

間と光のなかで精神や時間と向き合う住居は、情報の海から生活者の心と身体を守り高める。そのため他者からの干渉を受けないことが重要であり、自分だけの間を体感できる単身者が暮らすという住居形態が適している。



## 光を受ける曲面壁

曲面が可視化された光線を暗闇へと導き入れる。曲面の豊かな表情が時の移ろいを映し出す。



## 明暗のグラデーション

最も明るい屋外テラスから奥に行くにつれ暗闇へと変化していく空間構成。生活に明暗の変化が生まれる。